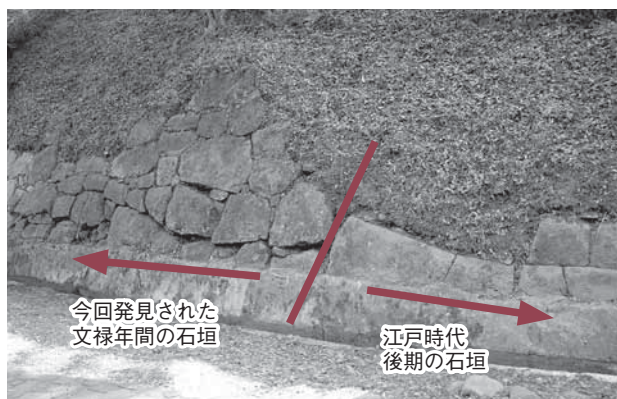


東北で最古級の石垣を発見 白石城本丸跡外郭に文禄年間の野面積み石垣

東日本大震災による被災状況把握のため白石城石垣の調査を行ったところ、本丸跡外郭の東側から文禄年間(1592～1595)に築かれたと考えられる野面積みの石垣が確認されました。片倉小十郎景綱公が白石城を預かる以前の石垣で、豊臣方の家臣・浦生源左衛門郷成が築いたと考えられます。野面積みは長くて大きい石の周りを小さい石が取り囲む特徴があり、東北では二本松城や会津若松城で確認されています。6月9日の現地説明会では、調査を実施した北日本近世城郭検討会の鈴木啓会長が「非常に価値が高い石垣」とその価値を話しました。



▲中央の線を境に石垣の積み方が異なっている

おばあちゃん、100歳おめでとう! 高橋いせさんに祝詞と松竹梅敬老祝金を贈呈



▲みんなでご長寿をお祝いしました

6月12日、満100歳を迎えた高橋いせさんを風間市長が訪ね、松竹梅敬老祝金と祝詞を贈り長寿を祝福しました。いせさんは蔵王町宮のご出身で、結婚後は3人の子どもを育て、現在は孫が3人、ひ孫が2人います。現在はあさくらホームに入所中で、この日は福島からご家族が集まり、いせさんの長寿をお祝いしました。

いせさんは宮小学校時代の小野さつき訓導の教え子で、今も小野訓導の話がされるそうです。また、歌が好きないせさんは、集まった家族と一緒に「ふるさと」などを歌い、笑顔があふれていました。

地域のつながりが心を育てる 保育園などにカブトムシの幼虫をプレゼント

5月24日、社会福祉法人白石陽光園「生活介護とも」(小室真二施設長)の利用者と職員が北保育園を訪れ、カブトムシの幼虫30匹を贈呈しました。陽光園では「地域とのつながりを大切にしたい」という思いから、カブトムシの飼育を平成18年に始め、保育園や幼稚園、小学校などにプレゼントしています。北保育園ではこの日、4・5歳児23人がお出迎え。園児たちは幼虫に興味深く見つめていました。陽光園の職員が「立派なカブトムシになることを願っています」と話すと、園児たちは「大事に育てます」と元気に約束しました。



▲カブトムシの幼虫に興味深く見ている園児たち

おばあちゃん、100歳おめでとう! 吉田とくよさんに祝詞と松竹梅敬老祝金を贈呈



▲みんなでご長寿をお祝いしました

5月30日、満100歳を迎えた吉田とくよさんを風間市長が訪ね、松竹梅敬老祝金と祝詞を贈り長寿を祝福しました。とくよさんは丸森町のご出身で、結婚後は和裁の仕事しながら3人の子どもを育て、現在は孫が6人、ひ孫が5人います。趣味は縫い物、好きな食べ物は和菓子と柿というとくよさん。現在は八宮荘に入所中で、この日はご家族のほか、入所者や施設職員も集まり、みなでとくよさんの長寿をお祝いしました。また、施設の皆さんにお世話になっていることへの感謝の気持ちとして、ご家族から八宮荘に九谷焼の壺が贈呈されました。

「手づくり」で広がる縁 第8回手づくりの市

5月26日・27日の2日間、趣味のグループや個人が手づくりした作品を展示・販売する「手づくりの市」(同実行委員会主催。日下恵美子委員長)が壽丸屋敷で開催されました。「まちなかのにぎわいを」と平成18年に始まり、今回で8回目。会場には、生活雑貨からおしゃれな小物、竹細工など幅広いジャンルの作品が展示され、来場者は一つ一つ作品を手に取りながら、出店者との会話を楽しんでいました。天候にも恵まれ、2日間で約1,000人が来場。売上金の一部は、実行委員会から市に災害復旧のために寄付されました。



▲出店者との会話も楽しみの一つ

白石の文化発展のために 碧水園に掛け軸2幅を寄贈



▲碧水園茶室の早期復旧を願い掛け軸が贈られました

6月4日、東日本大震災の犠牲者の冥福を祈る「震災供養大茶会」を開催した実行委員の皆さんが、碧水園の早期復旧と白石の伝統文化の発展を願い、掛け軸2幅を碧水園に寄贈しました。掛け軸は、3月5日の茶会時に来白された大徳寺別院徳禅寺(京都市)の橋宗義住職が書いた「喬雲翔龍」と、来場者に呼び掛けて集まった寄付金をもとに購入した、伊達政宗ゆかりの書家・和久是安が元和年間(1615～1624)に書いた「君が代」。武田教育長は、「早く掛け軸を飾れるように復旧させ、白石から文化を発信したい」と話しました。

増加傾向にある糖尿病性腎症の血液透析患者に対応 公立刈田総合病院が人工透析治療機能を強化

6月6日、仙南医療圏の人工透析患者受け入れ体制を強化するため、公立刈田総合病院透析室のベッドを8床増床して50床にするとともに、患者受け入れ体制の強化に必要な設備の整備が完了したことを祝うセレモニーが同病院で開催されました。

高林俊文院長は「東日本大震災により工事完了が遅れましたが、宮城県地域医療再生基金を活用して、増加傾向にある人工透析患者の受け入れに対応することが可能となりました」とあいさつ。この日のセレモニーでは、関係者がテープカットをして工事完了を祝いました。



左_テープカットをする左から同病院大高副院長、高林院長、白石腎臓病友の会川村会長 右_8床が増床された透析室

自然にふれるきっかけになれば 写真家細田満夫さんが写真集を寄贈



みどりの教室



細田 満夫

左_武田教育長に写真集を手渡す佐藤さん(写真左)
上_細田さんから寄贈された「みどりの教室」

5月14日、佐藤可子さん(本町)が市役所を訪れ、佐藤さんの娘さんの夫で写真家の細田満夫さんが出版した写真集「みどりの教室」100冊を市に寄贈しました。佐藤さんは「子どもたちが自然にふれるきっかけになれば」と話し、武田教育長は「小中学校や図書館に配布し、子どもたちの情緒豊かな感受性をはぐくむため有効に活用させていただきます」と話しました。

細田さんは、プロの写真家として写真集を発行するとともに、仙台メディアテークや東京(銀座)フレームマン、ギンザ、サロンで写真展を開催するなど活躍されています。